

令和7年度障がい者支援施設南富良野からまつ園事業実績報告書

第1 基本方針

令和7年度の南富良野からまつ園は、法人理念に基づき「利用者本位の支援」を基本として人権擁護及び法令遵守を徹底し、安全で快適な施設環境の整備を進めました。

利用者の重度化・高齢化に対応するため、個別支援計画の見直しを適宜行うとともに、個々の身体状況や生活ニーズに応じて、高齢者支援や医療的ケアを重点とする施設へ異動を行い、より適切な生活環境の提供に努めました。また、日中活動や外出機会の確保に取り組み、生活の活性化とQOLの向上に努めました。

職員体制については、少子化・高齢化等により人材確保が厳しい状況の中で、特定技能実習生の継続的な受入れ雇用を進めたことにより一定の支援体制を維持しました。また、採用活動としては、施設見学会の開催や各種ガイダンスへの参加並びに各学校からの実習生の受入れ等を実施し、積極的な人材確保に努めました。

運営面では、ICT機器の試験導入とオンライン会議の活用により情報共有の円滑化及び業務効率化を進めましたが、活用は一部にとどまっており、さらなる導入の推進が必要な状況ですので、今後においては、職員の業務負担の軽減の観点からも、導入を進めていきたいと考えています。

経営面では、ご利用者数の減少を踏まえ、報酬改定への対応や上位各種加算の取得に努めるとともに、物価高騰を踏まえたコスト管理を行い、安定した財政運営の会計執行に努めました。

また、防災及び感染症対策として事業継続計画（BCP）の見直し及び訓練を実施し、非常時の対応力の向上を図るとともに、業務の見直しや定時退勤の推進、時間外勤務の削減、行事内容の見直し等により、職員の業務効率化と働きやすい職場環境づくりを進めました。

なお、令和7年度は特に以下の事項を重点項目として取り組みました。

1 高齢・強度行動障がいに対応した環境改善とサービス提供

高齢化・重度化に対応し、個別支援計画の見直しと意思決定支援の充実を図りました。強度行動障がいのある利用者については、支援方法の工夫や職員配置の調整を行い、安心して生活できるよう環境づくりを進めました。

また、人格・個性を尊重した合理的配慮のもと、安全で適切なサービス提供に努めるとともに、日中活動の充実や外出機会の確保を通じて生活の活性化を図りました。一方で、社会参加の機会は限定的な状況にあることから、意思決定支援の充実を進めるとともに、希望する利用者に対して地域生活に関する見学や勉強会等を実施しました。

2 人材確保と職員の定着

施設見学会の開催や各種ガイダンスへの参加、実習生の受入れ等を通じて人材確保に努めるとともに、特定技能実習生の継続的な雇用により支援体制の維持を図りました。

一方で、人材確保は依然として厳しい状況にあり、職員の定着に加え、支援の提供において一部にばらつきが見られました。業務の見直しや時間外勤務の削減等により働きやすい職場環境の整備に取り組みましたが、引き続き人材育成と定着に向けた取組の強化が必要です。

3 技術革新の推進

ICTの活用の検討を推進し、機器の試験導入やオンライン会議の活用により、職員間の情報共有

の円滑化及び業務の効率化に取り組みました。試行的な中でも、一定の業務負担軽減が見られましたが、活用は一部にとどまっており、施設全体としての効果は限定的な状況であります。

また、ＩＣＴに関する内部研修会を実施し、多くの職員が参加したことで理解の促進を図るとともに、他法人における取組事例の情報提供を行いました。

今後は、ＩＣＴの本格導入に向けた検討及び準備を進めるとともに、全職員が共通認識を持ち、導入の目的や意義の理解を深めながら、業務効率化及び業務負担軽減につながる体制整備を進め、次年度以降の業務改善に結び付けていくことに努めます。

4 法令遵守と資質向上

支援業務上での虐待防止及び権利擁護の観点から、外部研修及び内部研修を実施し、職員の意識向上を図るとともに、チェックリストの活用により支援の適正化を進めました。虐待防止委員会では支援内容の検証を行い、身体拘束の適正化及び研修会開催等の取組を継続しました。

また、検証結果を踏まえた支援場面の振り返りや職員間での共有を行い、組織的な取組の強化に努めました。さらに、関係法令及び法人規程の遵守については、全ての職員を対象に周知及び研修を計画的に実施するとともに、職員会議等において制度改正や法令に係る事項を議題として取り上げ、理解の促進に努めました。

日常業務においては、リスクや留意点の共有及び理解度の確認を行い、職員のコンプライアンス意識の向上を図り、適正な事業運営の基盤強化を図りました。

5 緊急時対応

ヒヤリハットの収集・分析を通じてリスク管理の強化を図り、事故防止に向けた意識向上に努めました。リスク管理委員会が中心となり、事故等の分析結果については朝礼・夕礼での周知や職員が閲覧可能なシステムを通じて情報共有し、再発防止及び改善に向けた取組を進めました。

また、災害及び感染症への対応として、事業継続計画（ＢＣＰ）の見直し、役割分担の明確化を図るとともに定期的な訓練の実施により、迅速な対応体制の構築を進めました。

第2 運営組織（令和8年3月31日現在）

1 職員配置状況

区 分	園 長	総務部	支援部	短時間	計
男 性	1	5	21	2	29
女 性		3	22	14	39
計	1	8	43	16	68

第3 ご利用者の状況（令和8年3月31日現在）

1 各ユニットの男女別状況

区 分	もりのまち	ほしのまち	はなのまち	にじのまち	計
男 性	21	32			53
女 性			17	15	32
計	21	32	17	15	85

2 年齢別

区 分	～20 未満	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70 以上	最高 年齢	最小 年齢	平 均
男 性	1	4	5	1 8	1 3	6	6	85 歳	18 歳	50.6 歳
女 性	0	0	5	8	7	4	8	90 歳	30 歳	57.4 歳
計	1	4	1 0	2 6	2 0	1 0	1 4			53.2 歳

3 障がい別

区 分	てんかん	自閉傾向	統 合 失調症	ダウン症	身 体 障がい	視 覚 障がい	聴 覚 障がい	内部疾患	言 語 障がい	強度行動 障がい
男 性	1 2	2 4	0	5	4	1	4	4	2	2 5
女 性	1 1	7	1	1	4	0	1	2	4	1 9
計	2 3	3 1	1	6	8	1	5	6	6	4 4

4 障がい支援区分

支援区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計	平均区分
男 性	0	0	0	5	1 6	3 2	5 3	5.5 1
女 性	0	0	0	1	6	2 5	3 2	5.7 5
計	0	0	0	6	2 2	5 7	8 5	5.6 0

第4 事業と運営方針

1 事業の内容

(1) 生活介護事業 定員：100名（男性60名、女性40名）

主として昼間において、ご利用者の排泄及び食事等の介護、日常生活上の助言や相談、支援を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会の提供、身体機能や生活能力の維持・向上のための援助等を行いました。

(2) 施設入所支援事業 定員：100名（男性60名、女性40名）

主として夜間において、ご利用者の入浴、排泄及び食事等の介護・支援、日常生活上の助言や相談、支援等を行いました。

(3) その他の事業

短期入所事業	居宅において、その介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とするご利用者を対象に、入浴、排泄及び食事等の介護、その他の日常生活上必要な支援を受け入れる体制を取っていましたが、対象者はおりませんでした。
日中一時支援事業	居宅において、その介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間（日帰り）の入所を必要とするご利用者を対象に、必要な介護又は支援を行いました。
相談支援事業 （計画相談・地域移行・地域定着）	相談支援事業所「ふらっぷ」において、ご利用者の意思及び人格を尊重し、ご利用者の立場に立って計画相談支援を行うとともに、ご利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して実施しました。

2 運営方針の内容

(1) 総務部・総務課

法令順守及びコンプライアンスの徹底を前提とし、事業運営の基礎となる経営の安定化を図り、職員一人ひとりが専門的な知識及び技能を最大限に発揮することで高水準な福祉サービスが提供できるよう、中長期的なビジョンのもとで事業を遂行しました。

健全な経営及び財務基盤の強化	福祉事業に関連する法制度や施策を適切に把握し、財務管理及び会計等の経理事務について、透明性を重視しながら迅速且つ適切に取り進め、適正且つ計画的な予算の執行を進めました。また、介護給付費収入に係る各加算の取得を積極的に進め、将来に向けた修繕費や人件費等積立の充足を図り、法人全体の経営基盤の安定化と強化に努めました。
福利厚生の実施と処遇改善の推進	健康診断、生活習慣病予防検診、ストレスチェック等を実施し、産業医との連携のもと、職員親睦会の活動と併せて福利厚生等による職員の心身の健康づくりをサポートしました。また、国による処遇改善制度の受給要件となる手続き等を適切に行い、労働環境の整備や賃金向上を図ることで人材確保及び福祉サービスの向上を図りました。
ICT・DX導入による福祉サービスの向上	労働環境の改善、向上による福祉サービスの向上を目的に、デジタル機器の導入や環境整備を進めると同時にIT技術に対する職員の意識改革、活用を進めることでご利用者のリスクや支援者の負担を軽減し、より質の高い福祉サービスの提供と業務遂行の効率化を図りました。
建物及び設備等の計画的な保全管理	日常的な維持管理を実施し、建物や設備、備品の破損等に対応し、生活空間の安全管理及び環境整備を進めました。また、予算や事業の遂行状況を踏まえ、大規模修繕を要する箇所について、計画的に補修、工事等を実施しました。
安心・安全で楽しい食事の提供	給食業務委託業者との連携のもとで食品衛生管理の徹底したうえで、食を楽しめるよう嗜好調査等による希望献立の導入や行事食を企画するなど季節に応じた食事サービスを提供しました。また、非常時において三日分以上の食事を提供できるよう非常食を管理するとともに感染症発生時には状況に合わせた食事対応ができるように常時物品等の管理を行いました。
栄養ケアマネジメントによる健康支援の実施	栄養マネジメントによるケア計画作成及びスクリーニングを実施することで、ご利用者ひとりひとりの栄養状態を把握し、また、課題、問題点がみられるご利用者に対しては、看護師や支援員、関係機関等と連携し、食事形態や運動量等を含めた個別的な栄養ケアを行いました。
地域における公益的な活動と連携の構築	地域の一員として地域行事への参加や役割等に積極的に協力する他、福祉教育活動の実施や学生実習受け入れを通し、地域の福祉課題、生活課題の解決や町づくりに協働し、地域共生社会の実現に向けて取り組みました。

(2) 生活支援部・生活支援課

ご利用者の重度・高齢化の急速な進行に対応するため、一人ひとりの状態やニーズに即応した生活環境の調整と最良の福祉サービスを提供していくため、生活支援部内の協力体制を強化していくとともに職員の資質向上と人材育成に努めました。

つきましては、次の事項を重点に取り組みしました。

意思決定支援の推進 と自己実現の尊重（本人の意向を踏まえた同性介助）	ご利用者が自立した日常生活を営めるよう、面談やアンケートを通じて最新の意向を反映した個別支援計画を策定しました。意思疎通が困難な方には絵カード等の意思決定支援ツールを活用し、本人の意向を正確に把握しました。また、自主的な行動を促す環境づくりや生活の選択肢の拡大に努めました。なお、安心感を持って支援を受けていただけるよう、本人の意思に反した異性介助を避け、可能な限り同性介助者を配置する環境整備を行いました。
強度行動障がい を有するご利用者への 支援体制の充実	高齢のご利用者には危険物の除去やクッション材による転倒防止対策を、強度行動障がいのある方にはスヌーズレンの活用による環境調整を行いました。また、予定変更に敏感な方には、視覚的サポートの充実や選択肢の提示、毎日のルーティン確立を図ることで、見通しが立ち安心できる環境づくりに努めました。
個性に合わせた個別 支援計画の策定と安心・安全なサービス提供	ご利用者とご家族の意向を尊重した個別支援計画を策定し、定期的なケース会議を通じて支援内容の見直しを行いました。職員は虐待防止やリスクマネジメントを意識した専門性の高い支援を実践し、研修機会の確保により障がい援助技術の向上を図りました。さらに自立支援の推進として、地域生活を見据えた施設内外訓練を提供し、作業意欲の向上を図りました。具体的には、自立訓練ホームふらっぷを活用した自立生活体験や、グループホーム等の視察を実施しました。この取り組みにより、今年度は女性ご利用者1名が「コーヒーショップりとり」において施設外訓練を開始することができました。
障がい者虐待防止 と権利擁護、身体拘束 廃止の取り組み強化	法令遵守に基づき、ご利用者の人権を尊重した支援を推進しました。毎月の「虐待防止委員会」の開催による指針整備やマニュアルの周知徹底を図ったほか、「利用者生活委員会」や家族会役員による施設巡視を通じて透明性の高い運営に努めました。身体拘束の適正化に関しては、3か月ごとに委員会を開催し、日常のケアに身体拘束が潜んでいないか点検を行いました。職場全体で適切なケアを徹底した結果、今年度に身体拘束が必要となったご利用者はありませんでした。
職場環境の改善 人材の確保・育成	柔軟な有給休暇の取得を推進し、ワークライフバランスの向上と労働環境の充実に努めました。また、定期的な1 on 1 ミーティングを実施し、職員同士の相互理解を深めました。さらに、委員会や係業務を細分化・再構築し、個人担当制にすることで、職員が自身の役割と責任を明確に理解して主体的に業務に取り組める環境を整え、仕事満足度と働きやすさを高めました。これにより、組織全体の生産性と持続可能性の向上を図りました。
I C T導入・D X化の 推進	I C Tツールの積極的な活用により、業務効率化とペーパーレス化を推進しました。具体的には、生成A Iを用いた職員会議資料の要約によるペーパー削減や、動画配信による教育システムの構築で現場の負担軽減を図りました。また、専門業者の協力を得て「I C T・介護ロボット展示会」をからまつホールで開催し、職員への意識啓発を行いました。同時に、各ユニットでインカムや見守りセンサーの試験運用を実施して日勤・夜勤の現場意見を収集し、次年度の介護テクノロジー導入支援事業の補助金申請に向けた具体的な準備を進めることができました。

事故の未然防止 リスクマネジメント	リスク管理委員会を毎月開催し、ヒヤリハットや過去の事故事例を共有することで「転倒・誤嚥・誤薬」の未然防止に努めました。リスクマネジメント手法に基づき再発防止策を講じ、ヒューマンエラーの原因となる見落としや思い込み、情報伝達ミスを防ぎました。組織全体でルール遵守の意識向上を図り、重大事故を防止し、安全かつ安心なサービスを提供しました。
防災・防犯への 対応力強化	自然災害の発生に備え、業務継続計画（ＢＣＰ）を適切に運用できるよう、防災・防犯委員会を毎月定期的に開催し、適宜内容の見直しを検討しました。また、火災や自然災害に対応した実地および机上訓練を年２回以上実施しました。さらに、防犯意識の向上と防犯設備の点検、および不審者への対応スキルを習得するため、外部の専門家を招いた研修を実施しました。
業務継続に向けた 感染症に対する 対応力の強化	感染症の予防及びまん延防止、食中毒予防のための対策、研修、訓練について、感染予防委員会において検討を行いました。過去の実践経験をもとに、常に最新の指針やマニュアル、ＢＣＰの見直しに努めました。刻々と変化する新興感染症の情報収集及び情報提供を行うとともに、个人防护具等の物品の確保、およびワクチンを確実に接種できるよう関係機関との調整を図りました。
合理的配慮の提供	意思決定支援と合理的配慮の取り組みを強化するため、意思疎通が困難なご利用者に対して多様なコミュニケーション方法を活用しました。また、合理的配慮の提供を通じて潜在的なニーズを把握し、ご利用者一人ひとりが自身の意思を表明し、より良い生活を営むための支援を提供しました。
特定技能者のスキル アップと定着化に 向けた取り組み強化	長期的な人材確保に向け、特定技能外国人の日本語能力向上と資格取得の支援に努めました。今年度は、日本語能力試験「Ｎ３」に４名が合格し、介護職員初任者研修を３名、実務者研修を１名が修了するなど、着実なスキルアップを図りました。１月の介護福祉士国家試験には１名が初挑戦し、今回は不合格という結果でしたが、次年度の合格に向けた課題を明確にすることができました。あわせて、管理団体と密に連携した定期面談の実施や、職場内コミュニケーションの活性化を図ることで、特定技能外国人の抱える不安の解消と定着率の向上に努め、安心して長く働ける環境の整備を推進しました。
ボランティア、学生実 習生等の受け入れ	福祉教育機関と連携し、福祉を目指す学生やインターンシップの受け入れを行い、将来的な人材確保につなげる取り組みを進めました。また、中学校・高校の総合学習やボランティアを活用し、地域社会へ障がい福祉への関心を広める活動を行いました。

① 生活介護事業

ご利用者一人ひとりに適した支援サービスの提供をするため、ご本人及びご家族の意向に基づいて生活介護サービスの内容を精査し、安心と安全を基本にした各種サービスと活動プログラム等を提供しました。

◇生活支援課◇

《自立した日常生活および社会生活を営むことができるための支援》

生活支援	食事、排泄、入浴、移動、整容、歯磨き、衛生、服薬、居室内清掃、衣類整理、相談、情緒の安定等を図りました。
居住環境の整備	快適な環境（安全・清潔）の保持に努めました。
定期巡回	体調確認、行事連絡、話題提供を行いました。
行動障がい者への支援	施設の生活環境と施設外での行動を予測した場面での情緒の安定につながる個別支援を提供しました。
高齢者への支援	高齢に伴う身体機能や認知機能が低下したご利用者へ個々に応じた支援・介護・見守りを行いました。
健康状況の把握	A D Lや運動機能の他、バイタルサイン、体重、口腔、皮膚、精神状態などを観察し、体調の変化や異常の把握に努めました。

◇活動支援課◇

個々のニーズや特性に応じた日中活動の内容を検討し、健康維持・増進を図るサービスを提供しました。

活動支援第1係

創作活動	創作活動	各種行事、各種施設内外のアート展に向けた作品制作を進め、外部のイベントに展示する環境を設定して創作意欲向上を図りました。
	演芸活動	スポ・レク交流会、びあ・すてーじ等の施設内外の行事で披露する目標を設定し、ダンス、演芸活動を行い、身体を動かす機会を設けました。
療育活動	スヌーズレン	精神疾患や情緒の安定が難しいご利用者を対象に、心地良い感覚刺激が生じリラックス効果のある活動を提供し、情緒の安定化を図りました。
	構造化支援	作業工程の認識度合いに応じた設定を行い、創作活動や清掃の手順を構造化し、活動支援を行いました。
	I A D L 向上	自閉症スペクトラム症の方も含め、町内の買い物に行き、職員が同行して、買い物の手順を伝えています。パターン化には至りませんが、継続した支援を行うことで、自立意識を図りました。

活動支援第2係

生産活動	屋外活動	花壇整備、施設周囲の環境整備、除雪、こぞくら園の農産補助作業を通し、作業手順の認識向上を図りました。
	屋内活動	食器洗い、食堂・洗面所清掃、施設内清掃、ゴミ回収、リネン回収・準備等の作業を通し、意欲向上を図りました。
元気班	健康維持・増進活動	軽運動、屋内外散歩、歩行機能訓練、体操、風船バレー、雪中運動等で体力増進を図りました。また、かるた、トランプ、日光浴、花苗プランター管理、各種レクリエーション等で機能維持を図りました。
	生きがい活動	映画・音楽鑑賞、カラオケ、パズル、編み物、ビーズ・粘土創作、太鼓演奏、折り紙、塗り絵、図画・工作、その他個別の趣味や興味に合わせた余暇活動により、A D L、I A D Lの維持向上を図りました。

◇健康支援課◇

関係医療機関等との連携を図り、疾病の早期発見・早期治療に努め、心身共に健康で豊かな生活が送れるように支援しました。また、各種感染症の流行に対して、必要な知識や技術の習得を目的とした研修会等を実施し、施設内における感染予防対策の徹底に努めました。

健康管理	健康管理全般、医療的な処置、薬剤管理、摂食・嚥下調査
通院支援	各診療科目における定期通院、必要に応じた通院同行支援、往診介助
検診支援	歯科検診、定期健康診断、胃がん検診、婦人科検診
予防接種	新興感染症（新型コロナ）、インフルエンザ等の予防接種等
感染予防対策	新興感染症（新型コロナ）、インフルエンザ、ノロウイルスの感染症対策 ・各種感染予防指針を見なおし、マニュアル、BCPの修正 ・感染症に関する知識と技術の習得を目的とした各種研修会を実施 ・感染症防護具の数量の管理と補充 ・新型コロナワクチン接種～ご利用者・職員共に希望者は全員接種 ・インフルエンザ予防接種～ご利用者・職員共に希望者全員に接種

◇地域企画調整科◇

ご利用者の地域生活移行に向け、単身生活や社会活動、就労等の体験できる機会を提供し、地域生活のイメージ形成と自立支援の意欲促進に努めました。また、ご利用者の希望を反映した余暇活動や季節感のある行事について企画し、個々の趣味活動の醸成と楽しみのある生活を提供しました。

施設外訓練	一般事業所での訓練者に対して、訓練中の訪問や個別面接を通じてご利用者の就労スキルの向上とニーズの把握に努めました。女性利用者1名がジョブコーチを活用することで「コーヒーショップりとり」の施設外訓練を開始しました。
施設内訓練	日常の関りを通じてご利用者のニーズを把握し、施設内で取り組める清掃等の機会を設けることで自立意識の向上に努めました。
法人・3事業所 合同イベント	ご利用者の重度・高齢化に伴い、スポ・レク交流会、花火大会、ふれあいフェスタ等の規模を見直したかたちで実施しました。スポ・レク交流会は昨年同様にご家族が観覧しました。
町内イベント	参加希望者を募り、湖水まつり、福祉スポーツ大会に参加しました。神社祭は開催自体が中止しています。
余暇活動	ドライブや外出、映画鑑賞、味覚祭り等を企画し、ご利用者に余暇を楽しむ機会を提供しました。
地域生活移行支援	個別支援計画書に基づいて自立訓練ホーム「ふらっぷ」を活用した地域生活体験を実施しました。また、買い物や食事準備、避難訓練、森のパン屋やGH見学を実施することで、ご利用者の地域移行に向けた意識の向上を図りました。
その他	障がい福祉3事業所で合同の「障がい者週間記念事業」を企画・立案し、ご利用者代表による意見交換会を開催しました。あわせて、ご利用者と職員の双方を対象とした権利擁護・虐待防止研修会を実施しました。また、今年度から義務化された「地域連携推進会議」を新たに開催し、地域の方々を招いて連携を深めました。

◇ご利用者自治会の支援（あおぞらの会）◇

意見交換や地域の情報提供を行い、ご利用者の意思を確認しながら、主体的に各種事業や計画立案等の活動ができるように側面から支援しました。

利用者生活委員会	利用者生活委員会において、意見交換やサービス評価を行い、その内容を職員に周知しました。
事業計画の立案	事業計画の立案、実施に関するサポート（総会、クリスマス会、お楽しみ会、感染予防研修会、虐待・権利擁護研修会、防災訓練等）
情報提供	ポスター・資料づくり
自動販売機の運営	清涼飲料水の販売
総会・役員会の開催	総会・役員会の準備、運営
誕生会の協力	誕生会プレゼントの助成
施設内清掃活動	施設内衛生管理箇所の確認、大掃除の協力
施設外清掃活動	施設周辺でのクリーン作戦
地域奉仕活動	除雪ボランティアへの参加、リングプルの回収

◇家族会の支援（家族会事務局）◇

家族会と連携し、家族会事業の円滑な運営を事務局がサポートしました。また、会員相互の親睦を図ると共に定期総会、役員会等の企画や運営について協議しました。新興感染症対策を講じながら役員会は自立訓練ホーム「ふらっぷ」にて開催し、定期総会は南富良野町総合福祉センター「みなくる」にて開催しました。

② 施設入所支援事業

主に夜間において、入浴、排泄、食事等の支援、生活等に関する相談及び助言、その他必要な日常生活上の支援を行いました。

日常生活での支援	起床、就寝、睡眠、更衣、食事、排泄、歯磨き、衛生、服薬、相談、情緒の安定、必要に応じて移動介助と見守り等を行いました。
ホームルーム	体調確認、行事連絡、話題提供、地域情報提供を伝達しました。
就寝前支援	寝具確認、トイレ誘導、おむつ交換等を行いました。
定期巡回	居室内温度調整、体調確認を行いました。
行動障がい者への支援	施設の生活環境と施設外での行動を予測した場面での情緒の安定につながる個別支援を提供し、他のご利用者の危険回避も併せて行いました。
高齢者への支援	高齢に伴う身体機能や認知機能が低下したご利用者に個々に応じた支援・介護・見守り・居室等の環境調整を行いました。
健康状況の把握	食事、排泄、睡眠、運動機能の他バイタルサイン（検温・血圧、呼吸機能）、体重、口腔、皮膚、精神状態などを観察し、体調の変化や異常の把握に努め、必要に応じて医療機関に受診しました。

3 職員の研修、研究体制

○関係機関の主催する各研修会等の参加は次のとおりです。

研 修 事 業 名	参 加 職 員	参加延人数
北海道社会福祉協議会	支援員	3 人
日本・北海道知的障害福祉協会	園長・支援員・事務員	11 人
北・北海道知的福祉協会	園長・支援員	8 人
その他	支援員・看護師	18 人

○施設主催による各研修会は次のとおり実施しました。

研 修 名	開 催 回 数	延 参 加 職 員
新任者研修	・法人合同研修 1回 (4月) ・からまつ園内部研修 1回 (6月)	令和7年度採用職員対象
内部研修会	・法人合同研修 4回 (9月、10月、11月、3月) ・からまつ園内部研修 随時 (職員会議、委員会等で毎月開催)	延べ98名参加 全職員対象（短時間勤務職員含む）
階層別研修	・法人合同研修 5回 (7月、8月、12月、1月、2月)	延べ46名参加

4 年間行事実績

令和7年度の年間行事実績は、別紙1のとおりです。

令和7年度 主要行事・概要報告書

月	日	期 間	内 容
4 月	1 日 (火)		辞令交付式 駒木根穂美生活支援員、名原喬太郎生活支援員 入職
	1 1 日 (金)		山田さとみさん 富良野協会病院入院
	1 2 日 (土)		緑陽台歯科検診
	1 4 日 (月)		あおぞらの会 役員会
	1 7 日 (木)		あおぞらの会 総会
	1 8 日 (金)		ご利用者・職員 前期健康診断
	1 8 日 (金)	1 1 日間	安井和夫さん 富良野協会病院入院
	2 4 日 (木)	2 6 日間	矢野政一さん 富良野協会病院入院
	2 5 日 (金)		夜間火災想定職員招集訓練
5 月	9 日 (金)		第 1 回理事協議会
	9 日 (金)	7 日間	安井和夫さん 富良野協会病院入院
	1 0 日 (土) ・ 1 1 日 (日)	2 日間	町内花苗即売会
	1 3 日 (火) ～ 1 6 日 (金)	4 日間	春季一時外泊期間
	1 5 日 (木)		スイーツの日 (しろくまアイス提供)
	1 5 日 (木) ・ 1 9 日 (月)	2 日間	町内花見ドライブ
	2 2 日 (木)		からまつ園・こざくら園 合同火災避難訓練 法人決算監査
	2 7 日 (火)		からまつ園家族会役員会
6 月	2 日 (月)	1 2 日間	南幌養護学校高等部 3 年生 1 名 施設体験入所
	4 日 (水)		矢野政一さん 退所 (一味園異動)
	7 日 (土)		第 1 回理事会
	1 1 日 (水)		評議員選任・解任委員会
	1 2 日 (木)		障がい福祉事業所 合同防犯訓練
	1 3 日 (金)		北・北海道知的障がい福祉協会ソフトボール大会参加
	1 7 日 (火)		定時評議員会 第 2 回理事会
	1 8 日 (水)		南富良野中学校 2 年生総合学習 (久保田部長派遣)
	2 3 日 (月)	5 日間	名寄市立大学栄養学科公衆衛生実習受入 (2 名)
	2 6 日 (木)		おやつ提供 (おやき) 合同防犯研修
7 月	2 日 (水)		道北パークゴルフ大会
	3 日 (木)	4 2 日間	横山舜さん 北の峰病院入院
	5 日 (土)		第 4 2 回スポ・レク交流会 からまつ園家族会総会
	5 日 (土)	1 0 日間	尾森典子さん 富良野協会病院入院
	2 0 日 (日)	9 日間	松下哲也さん 富良野協会病院入院
	2 2 日 (火)		道北福祉協会オンブズマン訪問
	2 2 日 (火)	1 6 日間	札幌ほいく専門学校こども学科保育実習生受入 (2 名)
	2 8 日 (月)		北斗プロレス施設慰問・観覧
	2 8 日 (月)	1 2 日間	札幌スポーツ&メディカル専門学校実習生受入 (2 名)

月	日	期 間	内 容
7 月	2 9 日 (火)		昼食会 (肉フェス)
	3 1 日 (木)		リナ生活支援員 退職
8 月	5 日 (火)		道北福祉協会オンブズマン訪問 (職員面談)
	6 日 (水)		法人定例監査
	9 日 (土)		第 4 回施設見学会
	1 8 日 (月)	3 1 日間	名寄市立大学社会福祉学科実習生受入 (3 名)
	1 9 日 (火) ～ 2 2 日 (金)	4 日間	夏季一時外泊期間
	2 1 日 (木)		ライブハウスからまつ
	2 8 日 (木)		水害想定避難訓練 からまつ園・こざくら園 合同花火大会
	2 9 日 (金)		山田さとみさん 退所 (一味園異動)
9 月	1 日 (月)	6 日間	旭川短期大学栄養学科実習生受入 (1 名)
	1 日 (月)	2 9 日間	横山舜さん 北の峰病院入院
	4 日 (木)	1 5 日間	安井和夫さん 富良野協会病院入院
	6 日 (土)		令和 7 年度ふれあいフェスタ
	8 日 (月)	1 2 日間	佐藤美雄さん 体験実習受入
	1 7 日 (水)		道北スポーツ交流会
	2 9 日 (月)		第 3 回理事会
1 0 月	7 日 (火)		ふらの三番館出張販売
	2 0 日 (月)	1 0 日間	旭川短大保育実習受入 (2 名) 東川国際文化福祉専門学校保育実習受入 (2 名)
	2 1 日 (火)		南富良野町福祉スポーツ交流会
	2 3 日 (木)		秋の味覚祭り 南富良野高校 1 年生施設見学会
	2 4 日 (金)		夜間火災避難招集訓練
	2 7 日 (月) ～ 2 8 日 (火)	2 日間	道北福祉協会・すずらんの会交流事業参加
	2 9 日 (水)		非常食提供訓練
	3 0 日 (木)		ハロウィンイベント
1 1 月	1 日 (土)		道北福祉協会ぴあすてーじ
	4 日 (火)		イエシ生活支援員、アンギ生活支援員 入職
	7 日 (金)		特定技能実習生 4 期生辞令交付式
	7 日 (金) ～ 8 日 (土)	2 日間	からまつ園・こざくら園合同一泊旅行 (中富良野方面)
	1 1 日 (火)	3 日間	河西唯史さん 富良野協会病院入院
	1 3 日 (木)		曹友会慰問演奏会
	1 8 日 (火)		ふらっぷ自活訓練・避難訓練
	2 5 日 (火)		雪害・停電想定訓練
	2 8 日 (金) ～ 2 9 日 (土)	2 日間	十勝川温泉一泊旅行 (十勝方面)
1 2 月	3 日 (水)		表敬訪問
	3 日 (水) ～ 9 日 (火)	7 日間	障がい者週間記念事業
	4 日 (木)		障がい関係事業所合同自治会懇談会 法人定例監査
	9 日 (火)		障がい関係事業所合同地域推進会議
	1 2 日 (金)		第 4 回理事会

月	日	期 間	内 容
12月	16日(火)		普通救命講習
	18日(木)		クリスマス会
	19日(金)		特定技能実習生4期生多文化共生事業研修
	20日(火)	14日間	樋口龍二さん 富良野協会病院入院
	29日(月)		(社福) 岩見沢清丘園視察
	31日(水)	5日間	斗内正克さん 富良野協会病院入院
1月	1日(木)		新年を祝う会
	11日(日)		南富良野町二十歳を祝う会
	13日(火) ～16日(金)	4日間	冬季一時外泊
	19日(月)		名寄市立大学社会福祉学科1年生SW実習受入(4名)
	22日(木)		甘酒提供
	27日(火)		昼食会(海鮮丼)
	28日(水)		(社福) 札幌緑花会 砂川希望学院視察
2月	3日(火)		節分豆まき
	12日(木)		法人研究発表会
	12日(木)	12日間	斗内正克さん 富良野協会病院入院
	19日(木)		地震シェイクアウト訓練 町除雪ボランティア
	23日(月) ～24日(火)	2日間	からまつ園・こざくら園 合同一泊旅行(札幌方面)
	25日(水)	3日間	松下哲也さん 富良野協会病院入院
	25日(水)		第5回理事会
	28日(土)		駒木根穂美支援員 退職
3月	2日(月)		第2回評議員会
	3日(火)		桃の節句を祝う会
	5日(木)		法人定例監査
	14日(土)		安井和夫さん 富良野協会病院入院
	16日(月)		松岡順子さん 退所(一味園異動)
	23日(月)		第6回理事会
	25日(水)		宮内裕雅さん 退所 佐藤美雄さん 入所
	26日(木)		斗内正克さん 退所 昼食会(ハンバーガー)
	30日(月)		第3回評議員会
	31日(火)		退職者辞令交付 安田千春生活支援員、石田美樹生活支援員、 志戸田剣汰生活支援員、シティ生活支援員、 デスティ生活支援員 退職